

挨拶文（日本コンクリート工学会四国支部支部長）



甲斐芳郎前支部長に続き 2021 年 5 月の理事会において四国支部支部長をこのたび拜命することとなりました徳島大学の橋本親典（はしもと ちかのり）です。私個人としては、2 期目の支部長です。

私たちの生活を支える社会基盤施設（インフラ）の主要要素である鉄筋コンクリート構造物や無筋コンクリート構造物の老朽化は、我が国が抱える社会的課題の一つとして広く認識されております。また、国土強靱化施策における社会インフラの整備は必要不可欠でありかつ、できるだけ永く活用する必要があります。特に、四国地域の社会インフラは、他の地域と比較して、毎年発生する風水害や渇水、さらに東南海・南海地震発生による津波や地震災害等の厳しい環境に建設されております。したがって、社会インフラ整備に必要な構造物の主要材料であるコンクリートを扱うすべての技術の向上とそれを担う技術者の継続的な育成が必要不可欠であり、日本コンクリート工学会四国支部が果たすべき役割や責任は大変大きいと思います。

もちろん、全国的規模の学協会の活動も重要ですが、四国のことは四国が考えるべきであり、これまでの四国支部の委員会活動を、これからも継続していくことが重要です。健全な社会インフラを保持していくためには、これまで培われてきた知識・経験だけでなく、日進月歩の様々な技術開発や劣化事例に関する情報収集を行う必要があります。さらに、コンクリートの生産性向上の観点からの技術開発も急務です。そのためにも、継続的にコンクリートに関する技術を常に研鑽できる学術的組織が必要不可欠であり、その一部を本四国支部が担っております。

特に四国地域の特性や社会環境を熟知した技術者を養成していく学会活動を行っていきたいと思っております。さらに四国支部の学会活動から全国に向けて情報を発信し、我が国のコンクリートに関する技術の向上にも貢献していきたいと思っております。

2021 年度はコロナ禍での学会活動が中心になるとは思いますが、本四国支部の学会活動に御理解を頂くとともに、御支援を賜われれば幸いです。